

## 全カリ説明会を学生はどのように受けとめたか

秋田喜代美  
山本 博聖

本年4月から実施される全学共通カリキュラム（以下全カリ）の説明会が、昨年11月29日に開催された。まず寺崎全カリ部長から、全カリ成立までの経緯と理念の説明があった。その後、新たに全カリとして展開される言語関係カリキュラムが実松言語部会長から、総合関係カリキュラムが野田総合部会長からそれぞれ詳しく説明され、引き続き各担当者からの補足説明があった。一般教育課程から全学共通カリキュラムへの大幅なカリキュラム改訂ということもあり、学生側から150名にもよる多くの学生の参加があり、これらの学生に対して説明会終了後に、説明会の内容や新たに展開される全カリに対する意見や感想をアンケート形式で求めた。

その結果を以下に紹介する。なお、アンケート回答者は学年別では1年38名、2年38名、3年25名、4年4名、大学院1名、無記名6名の合計112名。学部別では文31名、経14名、理10名、社18名、法32名、無記名5名であった。

### 1 説明会の内容への意見

説明会の内容に関して、カリキュラムの理解度を5段階評定形式で調査したところ、80%以上の学生から、全カリの理念、言語教育科目、総合教育科目に関して、一応は理解できたという結果を得た。

しかし、説明会では十分に内容等を把握できなかったことや、さらに詳しい説明を必要とする事項として、表1に示すような意見や要望も寄せられた。

全カリ運営センターでは、説明会に対するこれら学生からの意見を踏まえ、4月に実施される各学部ガイダンスにおいて、新2～4年次生に対する措置について、資料を履修要項とは別途配布し、学生に周知徹底することとした。（本報告末に添付）

また、個別に学生からの履修相談を受ける1997年度全カリおよび一般教育課程履修相談室の設置（開設は4月10日、11日 12時から16時まで）も予定し、準備を進めている。

表1 本説明会の内容に対する学生の要望や質問

* 2～4年次生への措置に関する具体的内容説明を求める要求や質問 (10件)
・ 授業内容が従来のもとのどこが違うかはっきりさせてほしい。
・ 学生の負担の増減を明確にしてもらいたい 等
* カリキュラム改訂が専門科目および教職課程履修に及ぼす影響や、具体的時間割や担当者に関する説明を求める要求 (12件)
・ 現在教職を履修しているがダブルでの履修は難しくなるのか学部によってどのように変わるかを教えてもらいたい 等
* 試験実施 (追試・再試) に関する質問 (1件)
* 課外活動との関連からの、時間割の設定や開講場所に関する質問 (10件)
・ 言語が9, 10時限に入ることはあるのだろうか。
・ 講義数がふえるようだが、新座キャンパスの利用頻度がそれに伴い増加するのか。
・ ナイター設備などを設置すればよいと言うものではなく、大事な1年間をよいものにするためにどのような対策を考えているかを聞いたかった 等
* 言語教育におけるクラス分けや実際のコミュニケーションや言語文化の授業方法に関する質問や要望 (3件)
* 今回の説明会のあり方への感想・意見 (8件)
・ 全部の問題が検討してみるで片づけられてしまった気がする。
・ できあがったものが学生に一方的に出されただけではないか。
・ 来年度入学者についてのことも説明してもらいたい。
・ 情報公開が遅すぎる 等
* 今後のあり方への要望 (11件)
・ 具体的な時間割等を例年よりも早く配布して欲しい。
・ ニュース立教などで段階的な情報公開をしてもらいたい。
・ もっと学生に全カリの意識を高めるようアピールしてほしい 等

表2 全学共通カリキュラムへの改善度 (単位:人)

	全カリの 理念	言語教育 科目	総合 A	総合 B	情報教育	スポーツ 健康
1 一般教育課程の方がよい	10	9	4	4	3	8
2 あまり変わらない	29	20	43	51	58	64
3 改善されている	58	49	53	46	41	27
4 大幅に改善されている	12	31	8	4	3	7

## 2 カリキュラム内容への学生の意見

一般教育課程から全カリへの移行により、カリキュラムがどの程度改善されていると感じられたかを尋ねた結果を示したのが、表2である。

多くの学生がカリキュラムの改善をある程度認めており、特に言語教育科目については、その傾向が顕著に見られる。だがその一方で、総合教育科目においては、あまり変わらないのではないかとの印象を参加者の約4割が持ったのも現状である。

では、具体的に彼らが何をこのカリキュラムに対して感じ、要望しているのだろうか。表1の内容と一部重複するところもあるが、寄せられた要望の主だった内容を、表3に示した。

全体として、課外活動における時間および場所の保証に対する要望が最も多く出されていた。また、カリキュラムの改訂だけでなく、特に総合教育科目では各々の授業内容や授業方法がこの改訂に伴って変わることができるのだろうか、という具体的な実施に関する疑問も出されている。また言語教育科目に関しては、その教育的効果に対する疑問も一部の学生からは出されてきている。

## 3 アンケート結果をまとめてみて

今回説明会に参加した学生は、全体として全カリの理念を認めている。だが、その具体的な実施方策の部分でより一層の改革を、大学側にもとめている姿を感じとることができた。学生が主体的に学びに関わることのできるカリキュラムを考えていくためには、今後もさらに、このような学生との対話を行う場を準備していくことや、また教員自らも、カリキュラムの見直しや微修正を継続的に行い練り上げていくことが必要であろう。

またカリキュラムというマクロレベルでの改革の実現は達成されたが、各授業の中で担当の教員がどのように授業を展開するのかというミクロレベルでの意識変革と具体的な授業変革が今求められていることを、学生からの生の声によって強く感じた。カリキュラムは個々の授業レベルでその具体的理念を展開しなければ、意味を持ちえない。一人一人の教員がこの点にどのように取り組むかが、全カリのこれからの展開を決めていくといえるだろう。

(あきた きよみ 本学文学部助教授、  
やまもと ひろまさ 本学理学部助教授、  
全カリ運営センター運営委員)

表3 全カリのカリキュラムに対する要望・意見

\*全カリの理念について

- ・理念は同感であるが、理念と現実（講師陣、内容）のギャップを埋める具体的な対策があるのだろうか。実現できるならよいのではないだろうか。
- ・枠組み先行であり、大学側が決定したことだけを公開されても、学生側としてはどうしようもないので、決定する前に相談という形で公開をして欲しい。
- ・学生本位の計画ではないことは明らかである。社会からの要望があって、急に始めたなどの見通しのない証拠である。
- ・全カリは有効性が高いから課外活動は多少がまんしろとはあまり感心できる姿勢ではないと思う。リベラルアーツとはそのようなものなのだろうか。
- ・このような詰め込み教育はもはや「大学教育」ではなく「上級高等学校教育」といった方がよいのではないだろうか。
- ・来年の1年中心で、2～4年の肩身が狭い気がする。できることなら、1年からやってみたかった。

\*言語教育カリキュラムについて

- ・語学の時間の増加は学生の自由度を奪うことになるのではないか。大学時代に我々が学ぶのは大学だけからではないのである。
- ・部活動の視点からどのような対策を行うのか
- ・インテンシブコースは定員が少なすぎて、実際には帰国子女のみを対象としているのと等しいのではないか。
- ・リテラリーコースは本当に必要だろうか。自分は大学の英語の授業に失望した。高校の授業や予備校の授業と何ら変わらない。コミュニケーションコースは歓迎したいが、リテラリコースは残念である。
- ・大学生になって始めた言語が身に付くとは考えられない。
- ・中高でろくにやっていない英語に今更力をいれて意味があるのだろうか。
- ・1年のうちに、英語をやったら、2～4年で忘れてしまうのではないか。
- ・共通の教材やシラバスは個々の教員の自由度を奪うのではないか。
- ・生徒による教授・講師に対する評定制度を導入してほしい。

\*総合教育科目について

- ・幅広い教養を身につけることは確かに大切だと思うが、自分の興味のないことを半ば強制的にやらされて、関心のある勉強にむける時間が減ってしまうのはおかしいのではないのでしょうか。

- ・概して詰め込み教育の感が否めない。生徒の個性を無視し、薄く広い知識をつめこむやり方が果たして真の大学教育であろうか。
- ・やる気のない教員がいるかぎり、このカリキュラムは成功しない。今までの教授陣で理念にかなった授業が本当にできるだろうか。カリキュラムは改善はされると思うが、教授の魅力がないという点はそのままになりそうである。
- ・総合Bについて早く詳しく知りたい。

\*履修要項やシラバスについて

- ・シラバスの書式項目を全て統一して空欄の無いよう、テストの実施やレポートに関して書いてほしい。シラバスの活用は重要である。

\*課外活動との関連に関して

- ・学生にとって勉強をするのが本来の姿であるが、70%の者がサークル活動をし、90%の者がアルバイトをやっている現状で、7・8限以降の必修授業は学生無視である。望むこととして、全カリ、各学部と連絡をとりあって、7・8限以降の必修科目がある日を週2日程度にするといった具体的な措置がほしい。
- ・あいている教室の最大限利用を希望する。例えば、授業する場所と課外活動の場所を分けてください。

\*その他

- ・一般教養に対するコストが多すぎる。学生のためのインフラ整備に予算を使って下さい。コストを学生に還元すべきであり、もっと専門を重視した方がよい。
- ・一般教養だけではなく、専門科目の方の大きなカリキュラム改革も求めます。全カリが変わっても他が変わらなければ、意味がない。

## 資料 全学共通カリキュラム実施に伴う2～4年次生への措置について

1997年度1年次生より、従来の一般教育課程に変わり全学共通カリキュラムが展開されます。

2～4年次生には、これまでの一般教育課程が適用されますので、以下の措置をよく読み間違いのないようにしてください。

<在学生への措置のポイント>

### 1. 大前提

1997年度2～4年次生は、一般教育課程の規程が適用されるので、卒業に必要な単位数等の変更はない。

- (1)一般教育科目：人文科学・社会科学・自然科学分野からそれぞれ12単位以上、合計36単位以上。
- (2)外国語科目：第一外国語8単位、第二外国語6単位、ただし、文学部ドイツ文学科の第一外国語は12単位、フランス文学科の第一外国語は10単位とする。
- (3)保健体育科目：講義および実技、各2単位ずつ計4単位。

### 2. 単位修得方法の変更

#### (1)一般教育科目

- ・一般教育科目新科目（全カリ総合教育科目と共通）の中から履修することになり、一部の科目を除きすべて新科目となる。
- ・自由科目は廃止する。
- ・2分野以上にわたる共通科目は廃止する。
- ・開講期間はこれまでの通年から前期、後期となる。
- ・1科目の単位数は2単位となる。
- ・1年間に履修できる上限については、1997年度2・3年次生は28単位、4年次生は制限なし。

#### (2)外国語科目

- ・2年次必修科目は、これまでの一般教育課程の科目を開講するのでこれを履修する
- ・自由科目は、一部をのぞき開講する。

#### (3)保健体育科目

- ・体育実技IIおよび保健体育講義は、これまでの一般教育課程の科目を開講

するのでこれを履修する。

- ・自由科目は、新たな科目を開講する。

### 3. 必修科目の再履修

#### (1)一般教育科目

以下の科目の単位を修得できなかった場合は、学部によって履修科目の指定がある。

##### ①経済学部必修の「経済学」

経済学科：経済学科再履修者用の「経済学」

経営学科：経営学科再履修者用の「経済学」

##### ②理学部数学科・物理学科必修の「数学」

数学科：数学科再履修者用の「数学」

物理学科：物理学科再履修者用の「数学」

#### (2)外国語科目

①1年次必修科目未修得者は、再履修者用クラスで履修。従来行われていた1年次クラスでの再履修は廃止する。

②2年次必修科目未修得者は、再履修クラスまたは2年次クラスで履修する。

\*ただし、学科により指定のある場合があるので注意すること。

#### (3)保健体育科目

①体育実技Ⅰは武蔵野新座キャンパスで開講する「再履修体育実技Ⅰ（3・4年次）」から履修すること。

②体育実技Ⅱは池袋キャンパスで開講する「再履修体育実技Ⅱ（3・4年次）」から履修すること。

③保健体育講義は、再履修者用の保健体育講義を履修すること。

★1997年度末において必修科目を修得していない場合の1998年度再履修方法については未定である。1997年度秋以降に掲示等で発表する。

### 4. 試験

#### (1)定期試験

①一般教育科目は一部科目を除き前期開講科目、後期開講科目となるので、前期末試験、後期末試験となる。

②保健体育講義は従来どおり、前期科目は前期末に、後期科目は後期末に実施する。

③外国語科目は従来どおり、夏休み前に中間試験、後期末に学年末試験を実施する。

## (2)追試験

①一般教育科目、保健体育講義の追試験は、前期科目、後期科目とも実施する。ただし、前期科目の追試験の実施時期は後期末とする。

②外国語科目は学年末に実施する。

## (3)再試験

①一般教育科目は、後期科目・再履修者用の通年科目についてのみ実施する。

②保健体育講義は、前期科目、後期科目とも後期末に実施する。

③外国語科目については、学年末に実施する。

## (4)英語特別認定試験

英語は、後期末に未修得科目について特別認定試験を実施する。

なお、1998年度より、4年次生を対象に実施している再試験は廃止されます。

また、一般教育科目の追試験も、4年次生で一定の条件を満たしている学生のみが対象となります。詳細は、後日掲示板等で発表します。

2～4年次生への「措置」の詳細については、『一般教育課程履修要項』を参照のこと